

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	江戸川区発達相談・支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 8日	～	令和8年 1月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	113名	(回答者数) 92名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 8日	～	令和8年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 19名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い個別支援の提供	応用行動分析(ABA)に基づき、AI-PAC(独自に開発したアプリケーション)を活用して個々の発達特性やニーズに応じた支援プログラムを作成しています。またフォーマル・インフォーマルアセスメントを組み合わせた評価に基づき、個別支援計画を作成し、支援に反映しています。更に、保護者と支援内容を共有しながら家庭での実践につなげるペアレントトレーニングを実施しています。	AI-PACを活用した支援内容のフィードバック方法を工夫し、保護者が支援の意図や効果をより理解しやすい形で共有します。また、個別支援計画と日々の支援内容の関連性について説明を強化し、支援の見える化を推進します。
2	多職種連携および家族支援の充実	PT・OT・ST等の専門職や提携医と連携し、多角的な視点から支援を行っています。また、ペアレントトレーニングを中心に、保護者向け研修、サポートファイル作成会等を実施し、保護者の理解促進と家庭での支援力向上を図っています。更に、保護者向け研修内での交流機会や先輩ママ講演会等の実施により、保護者同士のつながりの場を提供しています。	職員間の情報共有や振り返りの時間確保を図るとともに、多職種間の連携をさらに強化します。また、保護者支援の各取組について、参加しやすい工夫や周知方法の見直しを行い、より多くの保護者が活用できる体制づくりを進めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容および安全面に関する情報共有	日々の支援内容やその意図、安全対策等については情報提供を行っているものの、伝達方法や頻度にばらつきがあり、保護者によって理解度に差が生じています。また、安全対策等については、掲示や文書での周知が中心となっていることから、十分に認識されていない場合があると考えられます。	支援内容やその目的について、より具体的かつ分かりやすい説明を行うとともに、口頭・書面・システム等を組み合わせた多様な情報発信を行っていきます。また、安全対策や訓練実施状況についても積極的に発信し、保護者が継続的に情報を受け取れる仕組みを整えていきます。
2	家族支援に関する周知・活用	家族支援の取組についてはメインプログラムとして実施しているものの、周知方法や案内のタイミング等により、保護者に十分に伝わっていない可能性があります。そのため、「実施していない」と認識されてしまうなど、取組の内容や目的が十分に理解されていないことが課題と考えられます。	保護者向け研修や講演会等の家族支援や、兄弟児も参加可能なイベントなどについて、分かりやすい周知と情報発信の工夫を行います。また、参加しやすい形式や案内方法を検討し、保護者が各取組を理解し、活用しやすい環境づくりを進めます。